

【評価実施概要】

事業所番号	170401772		
法人名	日本体育施設株式会社		
事業所名	グループホームやまのて		
所在地	札幌市西区山の手六条7丁目2-17 (電話) 011-614-1343		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(H20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤2人, 常勤換算	1.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(43,000 円)	退去となった日返却		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当たり 41,000円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名	
要介護1	6名	要介護2	9名			
要介護3	3名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	79.69 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清和記念病院 琴似ファミリークリニック 平和リハビリテーション病院 宮の森記念病院 国立西札幌病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ビルを全面改装し1・2階にホーム、3階に事務室と職員休憩室がある。地下には人工芝の広場があり、利用者の運動やレクの場として活用されている。事業所独自で職員用に『企業理念と従事者倫理・介護基礎知識・技術のガイドブック』を作成し、ケアの充実を図っている。職員の離職率が低く、利用者との馴染みの関係に効果を上げている。また外部の体操指導員が週2回、利用者と一緒に指導してくれ介護予防に役かっている。運営推進会議は利用者・地域住民代表等多彩なメンバーが参加し、2か月ごとに開催、家族アンケート結果、食事内容、行事、外部評価などを報告し、活発な運営をしている。地域の行事には積極的に参加し交流を図って地域に支えられるホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年の外部評価の結果については改善点を話し合い、問題点を明確にし『改善計画シート』で改善に向けた計画内容を明示、サービスの質の向上に取り組んでいる。評価結果については誰でもが手に取り見られるよう掲示板に掲出されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価し、スタッフ会議等で話し合い管理者が取りまとめ仕上げた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は利用者代表・家族代表・町内会長・老人会長・ふれあいセンター代表・民生委員・近隣老健施設・地域包括支援センター・施設長・管理者等、多彩なメンバーが参加し2か月に一度開催され、ホームの近況・行事予定と実施報告・認知症に対しての支援方法等が話し合われ日々のサービス向上に効果を上げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱の設置。面会時には意見・苦情・要望等話しやすい雰囲気作りをしている。2か月に一度発行の写真入りホーム便りで日々の生活状況を報告。家族の訪問時には行事写真を見ながら近況を伝えている。家族代表は運営推進会議にも参加している。また、家族アンケートをまとめ運営推進会議に報告して運営に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会している。利用者は地域の行事には毎月のように参加して楽しんでいる。また地域の人たちが二胡演奏・バンド演奏・将棋等のボランティアとして訪問し、入居者と交流。入居者も来訪を心待ちにしている。散歩時は近隣の人達・保育所の園児と挨拶を交わして交流を深めている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念『一人ひとりの個性を尊重し入居者の皆さんが笑顔で健康な毎を送れる暮らしをサポートします』はご家族・来訪者にわかり易い場の各ユニット入口に掲出されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時・毎月のケアカンファレンス・ミーティングで理念についての話し合い、意思の統一をはかり、ケアに活かしている。介護の基本的実践指針『一つ一つ ゆっくり いっしょに たのしく』をリビングに掲出している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会している。地域の行事には毎月のように参加し楽しんでいる。また地域の人たちが二胡演奏・バンド演奏・将棋等のボランティアで訪問し、入居者と交流。入居者も来訪を心待ちにしている。散歩時は近隣の人達・保育所の園児と挨拶を交わし交流を深めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価し、スタッフ会議等で話し合い管理者が取りまとめ仕上げた。また前年の外部評価の結果については、改善点を話し合い問題点を明確にし『改善計画シート』で改善に向けた計画内容を明示、ケアの向上に取り組んでいる。評価結果については誰でもが手に取って見られるよう掲示板に掲出されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は利用者代表・家族代表・町内会長・老人会長・ふれあいセンター代表・民生委員・近隣老健施設・地域包括支援センター・施設長・管理者等多様なメンバーが参加し2か月に一度開催され、ホームの近況・行事予定と実施報告・認知症に対するの支援方法等が話し合われ効果を上げている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開設準備段階から事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告し助言・指導を受け、サービスの質の向上に活かしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2か月に一度発行の写真入りホーム便りで日々の生活状況を報告。家族の訪問時には行事写真を見ながら近況を伝えている。金銭管理は月に一度出納帳のコピーと領収書の原本をご家族に送付し確認を得ている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。家族面会時には話しやすい雰囲気作りをし、会話の中から苦情・要望をくみ取りケアの改善や見直しに反映している。家族アンケートをまとめ運営に活かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率がよいので、なじみの関係と信頼関係をしっかりと築いている。職員はユニット間の異動もなく安定している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は毎月の西区管理者会議には必ず出席し、東京で開催された『全国グループホーム協議会総会』にも出席。職員は交代で外部研修に参加できるようにしている。また介護職員用に事業所独自で『介護に従事する人の為のガイドブック』を作成し、ケアの充実に役立っている。		独自の研修計画や研修・業務ガイドブックの作成など、効果的な取り組みをしているので、今後の一層の資質向上とその成果に期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間研修計画を立てている。他のグループホームを訪問し意見交換やネットワーク作り・学習会に参加している。職員は交代で外部研修やセミナーに参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり生活が始まるのではなく、職員・入居者・ホームの雰囲気慣れてから入居出来るように、まず職員が自宅に出向き顔見知りになる事から始め、ホーム見学・体験入居等で徐々に慣れてから入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション・毎日の運動・散歩・買い物・掃除・調理等一緒に生活する中で、共に学び支え合う関係作りを構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で出来るだけコミュニケーションをとり本人の希望要望を聞きとり、困難な場合は家族に聞きながら本人本位に検討し対応している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員でモニタリングし、カンファレンス会議で出された課題については、生活援助計画書に記録し介護計画へ反映。家族・医師・看護師・職員等が情報を共有・協力するようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居時にケアプランを作成。その後は経過を見ながら状況に応じて作成し急な変化があった場合は、生活援助計画書で短期のケアを実施。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて、通院や買い物時の送迎等には柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう事業所の多機能性を生かし柔軟な支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>年1回のすこやか健診、月2回の往診、週1回の看護師の訪問。かかりつけ医がある場合は出来るだけ継続通院が出来るよう職員が付き添い支援し、身体状況も伝えている。又、医師・看護師とは24時間体制で連絡がつく。なお、すこやか健診を受けていない場合でも必要に応じて、X線検査や血液検査等、身体状況に応じ検査している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制を導入。重度化や終末期に対しての指針は文書化され医療機関・家族・全職員で共有している。しかし、今後も学習し検討を進めることとしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>介護しているのではなく日常生活のお手伝いをしながら一緒に生活をしている、と考え個人のプライバシー・尊厳を重視した対応を徹底している。また個人情報については事務所で適切に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩や買い物もその日その時の体調や気分に合わせて、柔軟に対応している。行きたい所へ行けるように支援し、本人の自己決定を優先している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後片付けも一緒にし同じテーブルで楽しく食事をしている。栄養士の指導のもとバランスの良い食事、旬の食材や新鮮な自然食を取り入れた、季節感のある食事を提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴可能。一人ひとりの習慣に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否の方にはタイミングを見計らっての声かけや、医師・看護師から何気なく促してもらう等。また暖房設備も完備し、安全にゆっくり気分よく入浴出来るよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状況に合わせ調理の下ごしらえ・食後の片付け・洗濯物たたみ・雪かき等の手伝いをお願いしている。また感謝の言葉を必ず伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店や散歩等、希望するところに出かけるようにしている。また外出したがない人には仲の良い利用者に誘ってもらうなどし、出来るだけ外出出来るよう蔭から支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。鍵をかけない自由な暮らしの大切さを常に家族と話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに基づく 避難訓練を年1回実施して、実際を確かめている。なお、今後、地域の協力体制について、関係機関を含めた働きかけを検討している。		災害などの緊急時での町内会・近隣住民・関係機関との協力・応援体制については、運営推進会議なども含め協議され、その成果に期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事は記録している。栄養士の作ったメニューを参考に、自然食品や新鮮食材で調理し、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けしている。また一人ひとりの咀嚼・嚥下状況に合わせた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通で家庭で感じる日常生活の匂いや音(食事作りや掃除)で五感を刺激し、床暖房で快適で安全な居住空間を作っている。また温度・湿度・換気などに十分注意をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品・趣味道具を自宅から持参している。床はクッションフロア張りや転倒時の怪我を少なくするよう配慮した設計になっている。個々の状態に合わせて、心地良く安心して過ごせる様随所に工夫がみられる。		

 は、重点項目。